



文京区

HPアドレス

<http://www.city.bunkyo.lg.jp/>

面積	11.31km ²
世帯数	109,372世帯
人口	201,079人 (うち外国人) 7,123人
予算	695億円
職員数	1,777人

※平成24年8月1日現在

※平成24年度一般会計当初予算



春の小石川後楽園から望むビックセンター

区有施設と区役所からなる総合施設。25階の展望ラウンジからは、富士山、秩父連峰、筑波山を望むパノラマ



東大赤門(旧加賀屋敷御守殿門)

この地に上屋敷を構えていた加賀藩主が、將軍家から夫人を迎えるために1828年に建立。国の重要文化財



根津神社と文京つつじまつり
300年以上の歴史を持つ根津神社のつつじ苑では、春に約50種3,000株のつつじが咲き誇る。

歴史・見所・名所

文京区は、江戸の面影を色濃く伝える史跡や文化資産の多い、歴史的なまちであり、また、伝統ある大学や多くの学校のある文教の地としても知られています。

昭和22(1947)年3月15日、東京都の区部が22区(のちに23区)に改編されたときに、旧小石川区と旧本郷区が合併して誕生しました。区名については、旧小石川区役所職員の応募の中から親しみやすく、“文教の府”というイメージがふさわしく、両区の性格を端的に表しているということで、「文京」という名称が選ばれました。

区内には、由緒ある神社・仏閣、歴史を語る建造物が数多く残っているほか、明治時代には東京大学をはじめとする多くの学校がつけられ、さらに森鷗外や夏目漱石などの近代文学史上にその名を残す文豪たちが活動の拠点とし、文京のまちの礎を築きました。道沿いに点在するそのような文人たちの旧居跡や文学碑を眺めながら、散策を楽しむことができます。

また、小石川後楽園や六義園など江戸の大名屋敷庭園の面影をよく残している庭園もあり、緑と文化財に恵まれたまちといえるでしょう。

概要

坂と台地のまち

武蔵野台地の東縁部にあたり、「坂のまち文京」といわれるように、こう配の急な坂やがけと、江戸川(神田川)や千川・藍染川(共に現在暗きょ)などがつくった低地の部分、また関口台、小日向台、小石川台、白山台、本郷台の5つの台地に分かれ、台地と坂、台地に囲まれたいくつかの谷から成り立っています。

また、古くから大学や私塾が多く、文化人が好んで住む地域で、名だたる文豪たちがいくつもの坂道に足跡を残しています。鷗外と無縁坂、漱石と団子坂、啄木と切通坂、一葉と菊坂がその例といえます。

文教のまち

江戸時代に官学の府ともいべき湯島聖堂や昌平坂学問所のあったこの地は、明治時代に入ると広大な武家屋敷の跡地に教育機関が多く集まりました。区内には、平成25(2013)年2月時点で、19もの大学・短期大学が所在しています。

産業

印刷・製本業は、本区を代表する産業で、大手印刷会社から中小の印刷・製本関連の事業所まで軒を連ねています。区内製造品出荷額の8割超は、印刷・同関連業が占めています。また、本郷・湯島地区は、

東京大学医学部が開設された明治時代から医療関連産業のメッカとしても知られ、メディカルタウンとして有名です。

また、近年では、教育・学習支援をはじめとした都市型産業が増加しています。さらに、区内大学が有する知的財産を活用すべく、ベンチャー企業など、産学連携により産業界に新たな活力をもたらそうとする動きも出てきています。

「ふみだせパパ！」プロジェクト

子どもの健やかな成長と、男女の生き方の多様性を広げるために、講座や子育て施設の利用促進などで、父親の育児参加や子育ての仲間づくりを支援しています。保育園児のお父さんに園での子どもの生活を実感してもらい一日保育士体験や、先輩パパによる子育て支援講座、家族で楽しめる実践離乳食教室などを実施し、参加したお父さんからは「楽しかった」「意識が変わった」「もっと家族を大切にしたい」と好評を得ています。

主要課題

基本構想実施計画の着実な実施

平成22(2010)年に策定した基本構想を具体的に実現するため、平成23(2011)年3月に「基本構想実施計画(平成23～25年度)」を策定しました。本計画は、基本構想を実現するために必要な245事業を計画化するとともに、事業の実効性を確保するために計画期間中の財政計画も示した総合的な行財政計画です。

事務事業評価を活用した事業の進行管理を行いながら、本計画の着実な実施を通じて基本構想の実現を図っていきます。

品質志向の区政運営の確立

平成24(2012)年3月に「行財政改革推進計画(平成24～28年度)」を策定しました。本計画は、健全な財政運営の確保と区民サービスの向上の両立を志向する計画で、具体的には、「多様な主体との協働」「公有地及び区有施設の有効活用」「受益者負担の適正化」「効率的な庁内体制の構築」などを計画しています。

本計画の着実な実施を通じ、個々のサービスに求められる品質を高めることで、本区の現在と未来に責任を持つ区政運営を行い、区民から長期的な信頼を得るといふ「品質志向の区政運営」の確立を図っていきます。

将来展望

基本構想では、「みんなが主役のまち」「^{ふみ}「文の京」^{みやこ}らしさのあふれるまち」「だれもがいいきと暮らせるまち」の3つの基本理念を踏まえ、本区の10年後を想定した将来都市像を“歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち^{ふみ}「文の京」^{みやこ}”と決めました。この基本構想の実現に向け、区民、地域活動団体、NPO、事業者などの地域のさまざまな主体である新たな公共の担い手と区が力を合わせて全力で取り組んでいきます。



コミュニティバス“Bーぐる”
地下鉄等の各駅や病院、文化施設、観光拠点など点在する地域資源を結び、区民や観光客の足として活躍



森鷗外記念館開館
生誕150年に当たる平成24年に、文豪・森鷗外が後半生を過ごし、「観潮楼」と称した居を構えた地に開館